

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和5年11月1日 第29号
件 名	小学校で「ゲノム編集の野菜」を栽培させない、 食べさせないことを求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 60%; height: 15px; margin-left: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 50%; height: 15px; margin-left: 40px;"></div>
紹介議員	小林 れい子
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	文教委員会

請願理由

ゲノム編集によって遺伝子操作された食品が流通しているのは、世界の中で日本だけです。ゲノム編集食品は、安全性審査も食品表示も義務化されていません。動物に食べさせるの長期試験も行われていません。ゲノム編集の高ギャバトマト「シシリアンルーージュハイギャバ」を開発した筑波大学の江面教授は、「現在、オンライン販売のほか東京・神奈川のスーパー約70店舗で販売しており、今後生産体制が整い次第さらに拡大できる見通し」と述べています。ゲノム編集食品を知らずに購入し、食べてしまう可能性は誰にでもあるのです。

子ども達が、ゲノム編集食品を食べた際のリスクは未知数です。ゲノム編集は、目的以外の遺伝子を破壊する「オフターゲット」と呼ばれる現象が起きる可能性が指摘されています。目的以外の遺伝子が破壊されると、予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性があります。また、ゲノム編集には「抗生物質耐性遺伝子」が挿入されます。「抗生物質耐性遺伝子」が削除されずに体内に取り込まれると、抗生物質耐性菌が出現し、細菌が感染しても抗生物質が効かない体になる恐れがあります。

当初は安全とされていても、後になって重大な欠陥が見つかった事例があります。2016年、ゲノム編集の「角のない牛」がアメリカのリコンビネティクス社によって開発されました。リコンビネティクス社の科学者は「オフターゲットがない」と主張していました。しかし、3年後、アメリカFDA（食品医薬品局）の研究グループが検査したところ、多数の「オフターゲット」と「抗生物質耐性遺伝子」が3種類見つかったのです。これは安全性審査を開発企業に任せることによって起こった問題であり、日本でも同様のことが起きる可能性があります。

パイオニアエコサイエンス社とサナテックシード社は、ゲノム編集トマトの苗を2023年に全国の小学校に無償で配布する計画を発表しています。市民団体「OKシードプロジェクト」の調査では、全国200を超える自治体がゲノム編集トマトの苗を「受け取らない」と表明しています。「受け取る」と回答した自治体はありません。文京区でも子ども達を守るために、「安全性に疑いがあるものは使用しない」という予防原則で対応することが必要です。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

請願事項

- 1 ゲノム編集トマトの苗の提供が各校にあったときには、受け取りをせず、教育委員会にそうした申し出があったことの報告を徹底するよう区に要望してください。
- 2 食品表示の対象にゲノム編集食品を加えるよう、国に働きかけてください。